

JICA 開発大学院連携プログラム（各大学におけるプログラム）概要

大学名	北海道大学
研究科名	大学院環境科学院環境起学専攻
研究科の特色	<p>環境科学院の任務は、我々の暮らす地球環境を理解し、その保護のための新しい知識を創出し、さらには低炭素社会と効率的な資源利用を行う社会へと導く技術や手法を開発することです。したがって、実践されている教育・研究は、地球環境に関わる多様な現象や問題、そして将来予測が広く網羅されています。現在は35カ国・地域出身の留学生が在籍しています。来る未来に向けて、私たちの大学院は、学問領域を超えた研究の進展、世界のリーダーを担う次世代の育成、地域と世界を超えた柔軟な教育・研究体制の構築を目指していきます。</p> <p>https://www.ees.hokudai.ac.jp/</p>
プログラム概要	<p>我が国は、高度経済成長期には公害などの深刻な環境問題が生じたが、現在では世界に誇るべき環境水準を達成した。このような我が国のたどった環境に関する歴史を学び、環境法の整備や保全技術の開発、環境政策の推進のプロセスや現在実施している施策を学ばせることで、環境科学分野・環境行政におけるリーダー人材を育成する。</p>
「日本の開発経験に関する講義」の概要	<p>「環境科学基礎論」</p> <p>我が国の種々の環境問題について、特に海洋・河川・陸上の生態系や土地利用にどのような影響を及ぼしてきたか、その後の経過、解決に向けたプロセスや技術を概観する。</p> <p>「国際環境保全学総論」</p> <p>地球規模での環境問題、特に地球温暖化への対応としてのエネルギー問題や低炭素社会の構築などについて、我が国の取組み（特にODAによる取組）を紹介し、残された問題点等について議論する。</p> <p>「環境汚染比較特論」</p> <p>我が国および世界各国で起こっている種々の環境汚染問題について、戦後の高度経済成長期に起こった水俣病に代表される公害問題の経過を示しながら、その背景や現状を示すとともに、汚染の起こっている要因や現地で取られている対策について議論する。また、これらの汚染問題をいろいろな角度から比較検討することにより、将来の我が国の果たすべき役割や環境法について考察する。</p> <p>「再生可能エネルギー総論」</p> <p>資源小国の日本が70年代の石油危機以来、いかにエネルギー問題に対応してきたかの経験を概説する。特に、今後発展途上国においても導入拡大が必要な再生可能エネルギーに焦点を絞り、導入事例をもとに議論し、総合的理解を深める。</p>

関連 URL	http://educate.academic.hokudai.ac.jp/syllabus/SYLLABUS.htm
プログラムの魅力紹介	 <p data-bbox="347 824 954 857">環境汚染比較特論の授業の一環として下水処理場を見学</p>